



施設園芸技術指導士としての抱負

深川 大志

住友電気工業(株) 研究統轄本部
新領域技術研究所 農業技術研究室

私は2013年に施設園芸技術指導士の資格を取得いたしました。私はこの資格を活かして生産者の要望や、実際の現場の状況から問題点・改善点を判断し、作物の栽培条件や施設全体のバランスを考えた提案ができる者として活躍していきたいと考えています。

現在、私は住友電気工業株式会社で砂培地を使った栽培（砂栽培）装置を用いて栽培試験を行っています。培地に一定容積の砂を用いるので土耕に比べて水分や養分等の制御が容易なこと、また連作できることが特徴です。

そして、この砂栽培の特徴を活かして安定的に高糖度トマトが栽培できる栽培管理方法を開発するため、私は施設園芸指導士の見識を大いに活用して、この業務に従事しています。

私たちは砂栽培技術と千葉大の先端的な栽培環境技術を融合させ、高糖度トマトの収量の大幅増を目指す実証実験をすることにしています。一般に高糖度のトマト栽培では収量が大きく減少しますが、当社内の小型温室圃場で行った実証実験では、高糖度のトマトを単位面積当たり2倍程度多く収穫することに成功しました。

当社ではこの砂栽培技術の特徴を活かしたビジネスモデルの検討や、「農業の工業化」に向けた社内外の技術シーズの農業分野への幅広い応用展開を進め、安全で健康的な食料の安定供給の継続への貢献を進めてまいります。

その中で私は施設園芸技術指導士の立場から、この実証実験が円滑にかつ、この試験の目的がきちんと達成できる環境が整えられるよう、千葉大においてもこれまでに学んだノウハウを活かし、この実証実験が成功するよう努力している最中です。

同時に、この実証実験から得られるシーズンごとに変わる温度、日射量に応じた栽培条件から得られた知見を糧に、今後も知識やノウハウを習得していき、栽培する作物や気候に応じて最適な栽培環境を整える技術に指導士として更に磨きをかけていきたいと考えています。

また、言うまでもありませんが、この指導士という資格取得を最終ゴールとしてとらえるのではなく、今後も経験と幅広い知識を身に着けるよう尽力し技術指導士として有意義な経験が積んでいけるよう努力していきたいと考えます。まずは普段の業務等で身近に接している施設園芸関係者の方々や同僚の手助けになれば嬉しいですし、それが微力ながらも日本の農業に貢献できれば幸いです。

同時に、施設園芸に携わる者として自分が栽培に関わった作物（今はトマトになりますが）を、自信を持って市場に送り出し、お客様に喜んで「食べたい」と思っただけのような作物を栽培できるよう、日々、精進し業務に取り組んでいきたいと思えます。そのためにも施設園芸技術指導士として充実すべく、日々行動していきたいと考えています。